

# 随想

## 獅子と虎

速水良祐



獅子も虎も猛獣の代表選手、獅子が「百獣の王」と呼ばれるアフリカのチャンピオンなら、虎もまた「密林の王者」アジア随一の猛獣である。その強さにおいては、両大陸で、かなうものはない。

昔はアジアにもライオンはいた。小アジアやベルジャにいたことは学者の研究ではっきりしている。いまインドの西北。カチユアル半島にあるが、森林にインド政府の保護を受けながら、わずか百頭余りが生き残っているだけで、あとは絶滅してしまっただけは何を意味するか。強敵トラに滅されてしまったとみることができよう。そして、アフリカにはトラがいないので、ライオンが繁殖したのだといえるのではないかと。ところで、強い方が必ずしも人気があるとはいえない。

日本語でも獅子が悪い意味に使われることはまずないが、トラになると、逆にいい意味に使われることは、ほとんどない。婦人議員

が超党派で提案した「酔っぱらい追放法案」も、通称「トラ法案」と呼ばれている。あたりかまわず大声でわめきちらし、女性にからみ、はては乱暴する酔っぱらいのことを「トラ」とは、いつごろから呼びならわしたことであろうか。英語の辞書をひくと、ライオンには「力の強い勇猛な人」とか「名物男、流行児、人気者、名士」という訳がついている。つまり、獅子が転じて、そういういい意味を持つようになったのだ。一方、タイガーの方は「残忍な男、あばれ者」という意味を残すところである。ドイツ語やフランス語でも同様である。皮をはいでしまうと、専門家でも、ライオンとトラの見分けがつかないというのに、これは大変な差別待遇である。

動物園で見ても、ライオンのオスにはふさふさとしたタテガミがあり、何となく威厳があつて「百獣の王」と呼ぶにふさわしい姿である。トラも黄と黒のシマ模様がなかなか美しいが、ライオンほど

も貫録がないように思われる。

どちらも猛獣であるから、羚羊や鹿などの弱い動物を犠牲にすることによって生命を維持しているのであるが、犠牲に仕方がひどく違う。両者の人気の差は、こういうところにあるのかも知れない。ライオンは必要なだけしか獲物を殺さない。だから、羚羊やシマウマの群れがライオンに追いかけてられても、仲間の一頭が捕まっただのを見ると、もうそれ以上は逃げない。あとは安全なことを知っているからだ。

またライオンの家族が近くにいても、空腹でないことが判ると、平気で近くで草を食っているというライオンの一家族が必要とする食糧の量は大体一週間に羚羊やシマウマ一頭の割りであるから、あとの六日間は、これらの弱い動物たちも安心して草を食っていられるわけである。

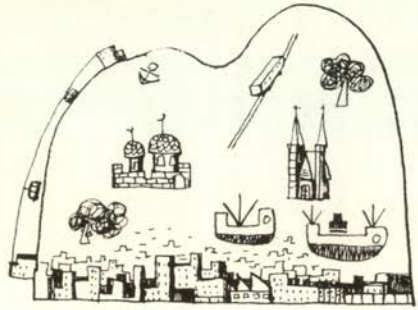
ところが、トラとなると、事情が全く違う。見さかぬに殺してしまうのだ。一度に牛を五、六

頭も殺すことがあるという。もちろん、そんなに食糧を必要とするわけではない。獲物をみると衝動的に殺してしまわずにはいられないらしいのだ。タイガーに「残忍な男」という意味が生れるのも、ゆえなしとしない。

また、見さかいなしに暴れ回る酔っぱらいを「トラ」と名づけるのも当然である。そういえばヒトラーもトラの一種だったといえは駄洒落すぎるだろうか。

(毎日新聞神戸支局次長)

## 山紫水明



## 星空ひかる

私は、神戸の長田で生まれ、以来ずっと神戸に住んでいます。神戸を離れたのは、戦時中に田舎に疎開した時と、地方公演の時だけ。だから本誌の題名「神戸っ子」と同じように、いわば私も生粋の「神戸っ子」です。

山紫水明の神戸の街は、ほんとうに美しい街—美しい環境に包ま

れていると、その美しさを余り意識しないけれども、それでも折りこふれて電車の窓から眺めた海の美しさや、山々の樹々の色の変化に、季節の移り変わりを知らされて、「我が故郷は佳きかな」/と思うことがしばしばあります。

四、五年前にハワイへ行った時その美しさに「同じ住むなら、こんな所で」とチョッピリ思ったりもしましたが、それでも神戸に帰ってくると、やはり私には神戸が一番いいとつくづく思いました。ただ、いつも残念に思うのは、東京、大阪はもちろん、名古屋にも地下鉄があるのに、神戸にはまだそれが無いことです。

素人考えだけれども、神戸のような東西に長い街は、横一本だけ地下鉄を走らせれば、事は片付くのではないでしようか？

先日、ある新緑会社のフアッシュョン・ショーを兼ねた公演があり着地のメーカーが、如何に色彩というものに関心を持たれ、新しいモードをとり入れることに懸命になっていられるかを知りました。神戸には外人の方もたくさん住んでいられますし、外国の観光船も一番に人港します。

港やあちこちの街角で、ふとみかける外国婦人の持ち物や、服装のアカぬけしたセンスに魅せられることがよくあります。

「婦人服は神戸の仕立て」ということをよく耳にしますが、私たち「神戸っ子」は、もつともっと色彩というのに関心をもって、「トップ・モードは神戸から。流行は神戸から」といわれるようにしまししょうよ。

(宝塚花組)

## 表紙のことば

いま世界画壇で最高といわれて、ピカソ以上に話題になり注視を集めているのは、ベルナルド・ピユッフェである。

そして、その画は画壇最高の価格で、ピカソをしのぐ程よく売れるといわれている。

この画伯、実は三十三歳のパリっ子だが、いまは、パリを離れてエックス・アン・プロバンスに城を買って住んでいるといわれている。この驚ろくべき人気は、神秘的な伝説さえ生むというぐらい騒々しいものである。全く独創的なピユッフェの画は強い個性にとんだものでその鮮烈さは類を見ない。彼独自の鋭いタッチで描かれる、すばらしいデッサンは鬼才を思わせ、その迫力はピユッフェ独特の世界で現代人を魅了する力をもっている。

日本でもピユッフェの人気はすばらしく、最近でも国際美術展、ピユッフェ展などがひらかれている。「神戸っ子」の表紙を飾っている鉛筆デッサンによる「鳥」は一九五八年に創作された作品。

しかも、こんなピユッフェの画が、神戸のしやれたバアーにかけられていたら……

既に神戸っ子にも紹介された、飛鳥にかけられています。

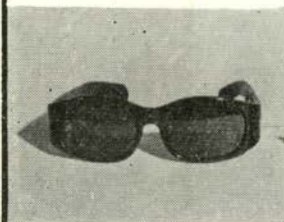
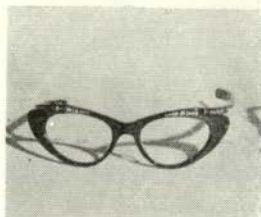
さすがに神戸のバーらしくセンスのいいところです。

「神戸っ子」のフランス特集号にタイムイングを合せて、表紙カットとして紹介させていただきます。

# サングラスで 楽しく・美しく

夏のアクセサリとして  
楽しいサングラスを

- サングラス  
豊富品揃



¥ 400～  
¥ 1,700

## 平井メガネ

生田区加納町 4 丁目 1 / 1  
国鉄三宮北側 ② 7 9 3 7



お菓子のことなら

## 寿本舗

三宮店・阪急神戸西口 (3) 0 3 8 1  
元町店・元町通 2 丁目 (3) 1 1 3 6



# ここに神戸がある

司馬遼太郎  
え・中西 勝

## 船旗の群れる海

「結構やな」  
五十嵐さんこんどはどこへ行くのときくと、ミナト、といった。

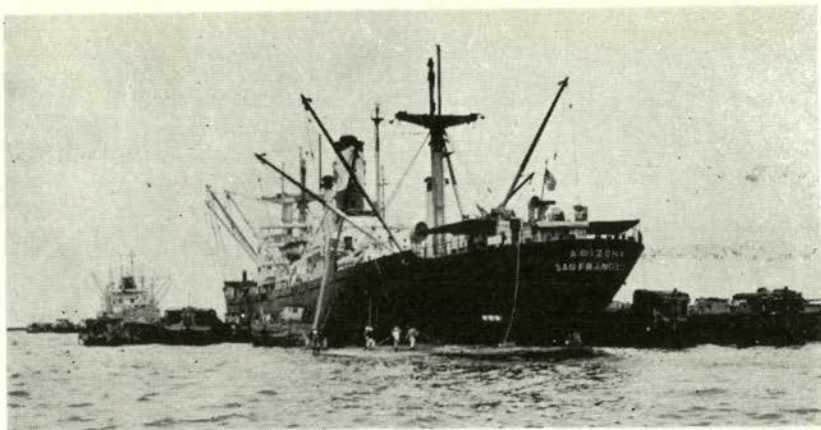
毎月一度、神戸へゆくのが、私にとって、ちよとした楽しみに  
なっている。ひとつは消化不良を解決する体操のつもりだ。

もうひとつは、このようなお膳立てがなければ、私が子供のころか  
ら抱いていた神戸への食わずぎらいは、ついに不治なものになつた  
に相違ない。

もっとも、大阪人にありがちな神戸きらいというのも、べつに根  
拠のあるものではない。下町のサンパツ屋のおかみさんが、山の手  
の奥さんに反発をおぼえるようなもので、尊敬の一表現といってい  
い。正直なところ、われわれどろくさい大阪人の感覚からすれば、  
神戸にはすこしまばゆすぎるようなところがあるようだ。

その神戸のまばゆさの光源が、どこにあるか。

いわずと知れている。慶応三年以来ミナトに出入りしつづけてきた  
内外の商船群であり、彼女らが、つねに新らしい感覚を神戸に運ん  
できた。このミナト見物は、わが神戸見学基礎教程に欠かすことが  
できません。



※

「神戸っ子」の五十嵐さん、小泉さんのほかに、神戸きつての船舶通といわれる神戸新聞外務部長の大淵ツトム氏がわざわざ案内の勞をとってくださった。私のほうでは船好きの愚妻がついてきた。むかえてくれたなかに、もう一人、重要な人物がいる。家内の友人で、産経新聞文化部の記者栗津信子さんである。

この人ほど、神戸を愛している神戸人をみたことがない。つねに十分の会話のうち一度は、コウベといふことばが出る。

栗津さんのふしぎは、五十嵐さんなどとはちがって、はえぬきの神戸人ではけっしてないのだ。彼女の神戸との縁は、新聞社の神戸支局に数年在動しただけの縁にすぎない。

よそのお嬢さんの閱歴を申しあげてはすまないが、このひとは長崎に生まれ、京城でそだち、東京に遊学し、大阪につとめ、神戸に住んでいる。当然、彼女は比較都市学の權威にならざるをえない。

その彼女が、大阪や東京を田舎と見、日本では神戸だけを都会だとみている。彼女が神戸で私どもをむかえてくれたのは、たんなる観迎の目的ではなく、多少、監視の意味もふくんでいると私は邪推した。時と場合によっては、大阪の田舎者の偏見を、彼女は横あいから正そうとするつもりだったのであろう。

※

私どもは、神戸通船会社の港内遊覧船に乗った。

先年、愚妻と横浜へ行つたついでに港内をみせてもらったが、なるほど、数字が示すだけでなく、神戸港は横浜のそれとくらべて、是絶した規模と美しさをもっていることが、ひと目みてわかった。

「あしたになったら、アメリカの航空母艦が入ってきますねん」

と船のなかで五十嵐さんがいった。外国船の一つ一つについて、大淵さんが専門的な説明をしてくれた。栗津さんはだまっていた。航空母艦はいなくとも、外国船が、いっぱいいた。船は、その国の文化と伝統の象徴であるといふことばが正しければ、そこに「外国」がいっぱいいいた。

かれらは、貨客を日本に運んでくるだけでなく、たとえば、ネクタイのガラヤ、婦人靴のモード、ちよっとした身ごなしや、咳ばらいの仕方や、食卓につくときの順序や、酒をのむときのセロリの噛み方まで、ふんだんに神戸の街にこぼしてゆく。

代々の神戸っ子は、かれらがまきちらしてゆく空気のなかでうまれ、そだち、この街をつくる大事なメンバーとして活躍してきた。

日本の大都会は、どの町をとっても、たいていは明治以前からの歴史をもち、城もしくは寺という封建勢力を中心に発展してきたものだが、神戸にかぎっては、慶応三年の開港当時は、山と海とわずかな漁村があるだけの海浜にすぎなかった。

京都は平安時代にすでに十五万の人口をもち、大阪は元禄時代に七十万の都会であり、東京は文化文政期には百万という世界有数の大都会であった。これらの都会どもは、明治の開国期になってその封建的体質のまま、大あわてで頭だけは洋髪にしたが、足には下駄をはいていた。

いわば宿場の娼妓がにわかには良家のお嬢さんのかっこうをして町を歩きだしたという戯画以外のなものもなかったが、神戸だけはちがっていた。

明治の開国とともに、つまり明治の開国精神をもって、あらたに砂地のうえに出来あがった町なのである。

したがって、この町には、日本のどの都会にもある。あの奇好きな排他性がない。その極端な例として、京都や金沢や熊本を思いだすがよい。東京でさえ、他郷出身の者が住むときに感じさせられるあの排他性は、日本の都会が、いまだに封建分藩制の名残りをとどめている証拠であり、かれらが都会ではなく、大きな村にすぎないといわれるゆえんである。

神戸の歴史は、そういう日本の性格のふっきれた史的地点から出発し、その体質をつくる土壌を、日本の伝統にもとめず、つねにミナトに入ってくる外国船にもとめた。

この都会が、六大都市のなかで、ついに異質なものになったのは当然なことである。

※

港の外国船をランチのなかから見あげながら、私は、この神戸がなぜ他郷人である粟津さんを魅了したかについて考えていた。

(なるほど、長崎うまれやな)

長崎という町が、江戸時代にあつては神戸的性格をもつ唯一の町だったのだ。

それに、京城そだちである。

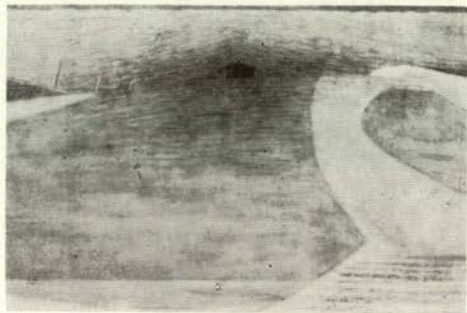


メリケン波止場に立つ司馬遼太郎氏  
後方はポートビル右が水上署

植民地の総督府のある町というのは、例外なく、日本の泥臭さからふっきれている。大連、新京、台北を考えれば、それらは、いずれも神戸に似ていた。

(なるほど、な)

私は、そっと、栗津さんを見た。彼女は、だまって微笑しながら、まるで自分の家の床の間の置き物でもみる様に外国船を見ていた。彼女は神戸弁こそしゃべれない。しかしその横顔にはありありと神戸がいた。



「道の構図」

## 水彩画の上尾忠生

神戸で水彩画家というとき、すぐ名の出るのが別車博資氏だ。画歴もかなり長いし、神戸に住んで神戸の風景をもたくさん描いているのだから当然のことだが、氏はまた大ぜいの弟子を持っていることでも有名である。これは、ご本人にはその意志が無かったのかも知れないが、長年にわたって兵庫工業高校の教職にあった関係上、直接、間接に生徒を指導したためであり、また同校は図案科などがある、そんな方面を突っこんでやる素質を持った生徒が比較的多くいたせいでもあろう。

上尾忠生君はその別車氏の教え子の一人である。もっぱら風景を追求しているが、現在は師とはかなり違った傾向を進んでいる。かなり日本画的な裝飾性が強く、し

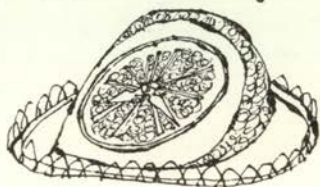
かもそれを何となく「絵」を持った快いムードで包んでいる。いつとき、それが心象風景的に処理されて思索的な深味をおわせていたものだったか、最近ではいささか明るくカラリと仕上がりがすぎた作品が平板になったきらいがある。一つの曲がり角に来ているのかも知れない。

しかし、初期のころの酒倉などの建物をズングリと重々しくとらえていたところから、絶えず個性を見せていた同君のことだ。水彩画の世界における新しい方向の開拓も夢ではあるまい。

一水会、日本水彩連盟所属。昨夏、神戸美術館で催された「われらの新人展」では一水会から推されて写真の作品ほか一点を出品、他会の俊鋭と競って受賞している

(伊藤 誠)

## 計時花



つゆどき

松井高男

そのむかし、男性ならずばらしい金髪の持ち主だったギリシヤ人の友人と、絵の具箱をぶら下げ

て奈良へ出かけたことがある。東大寺の裏の、池のほとりにカンパスをすえたところ、あいにくの梅雨空、次第にこぬか雨がたちこめてきた。池のそばには、寺院の白い土塀が坂ともなうねりながら長くのび、煙りはじめた池の面にそれがにじむように映っていた。

と、その土塀のなかほどにあるくぐり戸が開いて、和服姿の女性が立ち現われた。くぐり抜けたままの姿で小腰をかがめながら、ぱつと開いた蛇の目の、周囲をとりかこむ新緑をあざむくばかりのその透けるような緑と、エンジの雨ゴートが、白塀の前でハツとするほどの効果をあげた。鮮烈な印象をきざむ瞬間の情景だったが、残

念ながら隣りにいたギリシヤの友人は、私の注意にもかかわらず、一べつをくれただけで、鼻唄を歌いながらそそくさと絵の具を片づけはじめた。

毎年、梅雨どきになると、きまつてそのときのことを鮮やかに思い起こすが、神戸の町では、これほど印象的な水彩の配合に出くわさない。むしろ場所柄も違うが、一つの色が際立つには雑多な色がありすぎる。だが雑多ながら見なれた目には、それがきわめて自然にうつる。いもかくく悪いことなのか、ともかく神戸の町は梅雨空の下でも明るくはなやかにある。奈良で感じた金髪の異質感も、神戸へ帰るつくと同時になくなった。(神戸新聞学芸部長)





銀座店 銀座6丁目交詢社ビル  
TEL. 東京(571)2373・2637



洋服ノ粹  
渡 邊



神戸店 神戸三宮センター街  
TEL ③1650・6152・0019



オシャレをたのしむ帽子の店

**マキシシ**

トア・ロード TEL(36711) - 3

# 神戸の学園

No. 2



松蔭女子学院をたずねて

提供

兵庫トヨタ自動車株式会社



## 東京オリンピック

### をめざして

昭和の始め、現在の地青谷に新校舎設立の際、故浅野校長の女子教育における進んだお考えのもとに、飛込台付の二十五メートルプールが建設されたことは、当時の人々を大へん驚かせました。三十余年の歳月の流れの内に、美しかったタイル張りのプールの底も、十数ヶ所かコンクリートで修繕され、思い出を秘めて水面に映っています。

戦前にも数人の先輩が神宮プールに出場、その技を競って立派な成績を納めたと伝えられています

が、私の頭の中に浮んできますのは、なんとといっても戦後の数々の河童たちです。

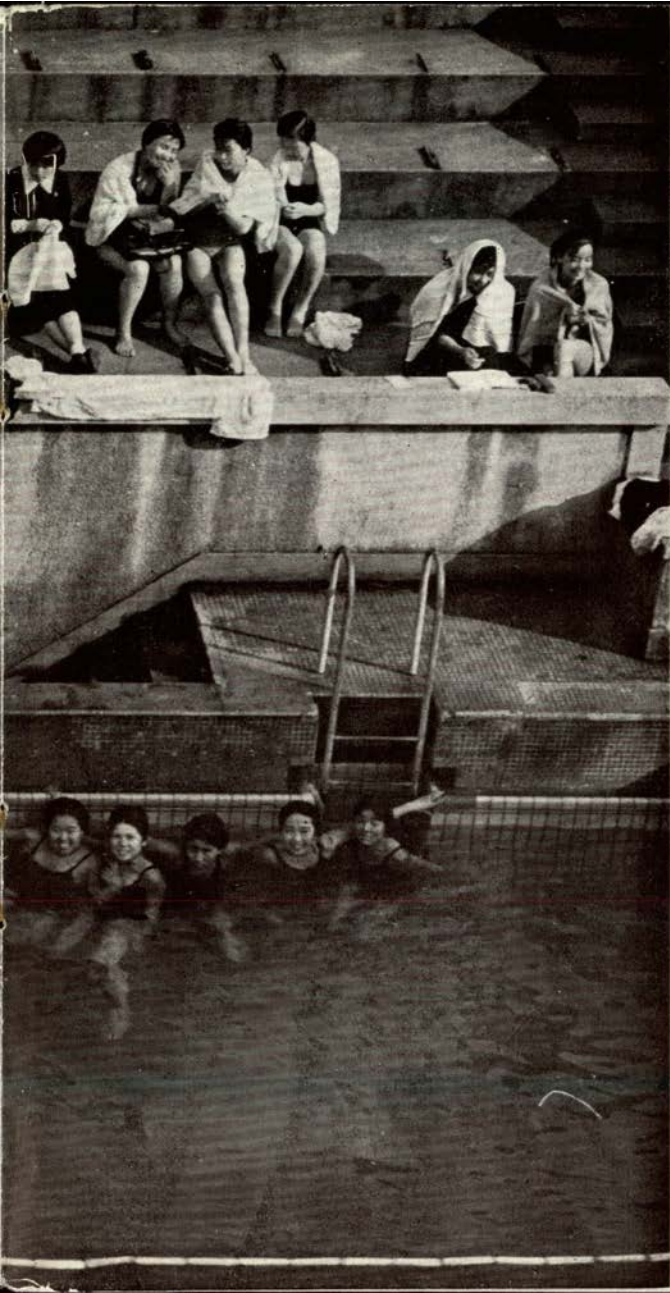
焼跡が見られる昭和二十三年早くも美しい水を張ったプールで練習に励んだ河童は、翌年、水泳界に名を轟かせていた武庫川女学院チームを破り、兵庫県高校選手権に優勝。この時から県下、近畿、全日本、団体にと目ざましい活躍を続けています。

数多い河童たちの中でも、昭和二十四、五年ごろ可児(背泳)福井、芳井(平泳)飛込の坂口、木村、後藤のトリオが、全日本選手権に出場して一、二、三位のメダルを獲得、なかでも坂口修子さんはマニラのアジア大会に出場、海

外に名を轟かせる第一陣としての記録を残しています。

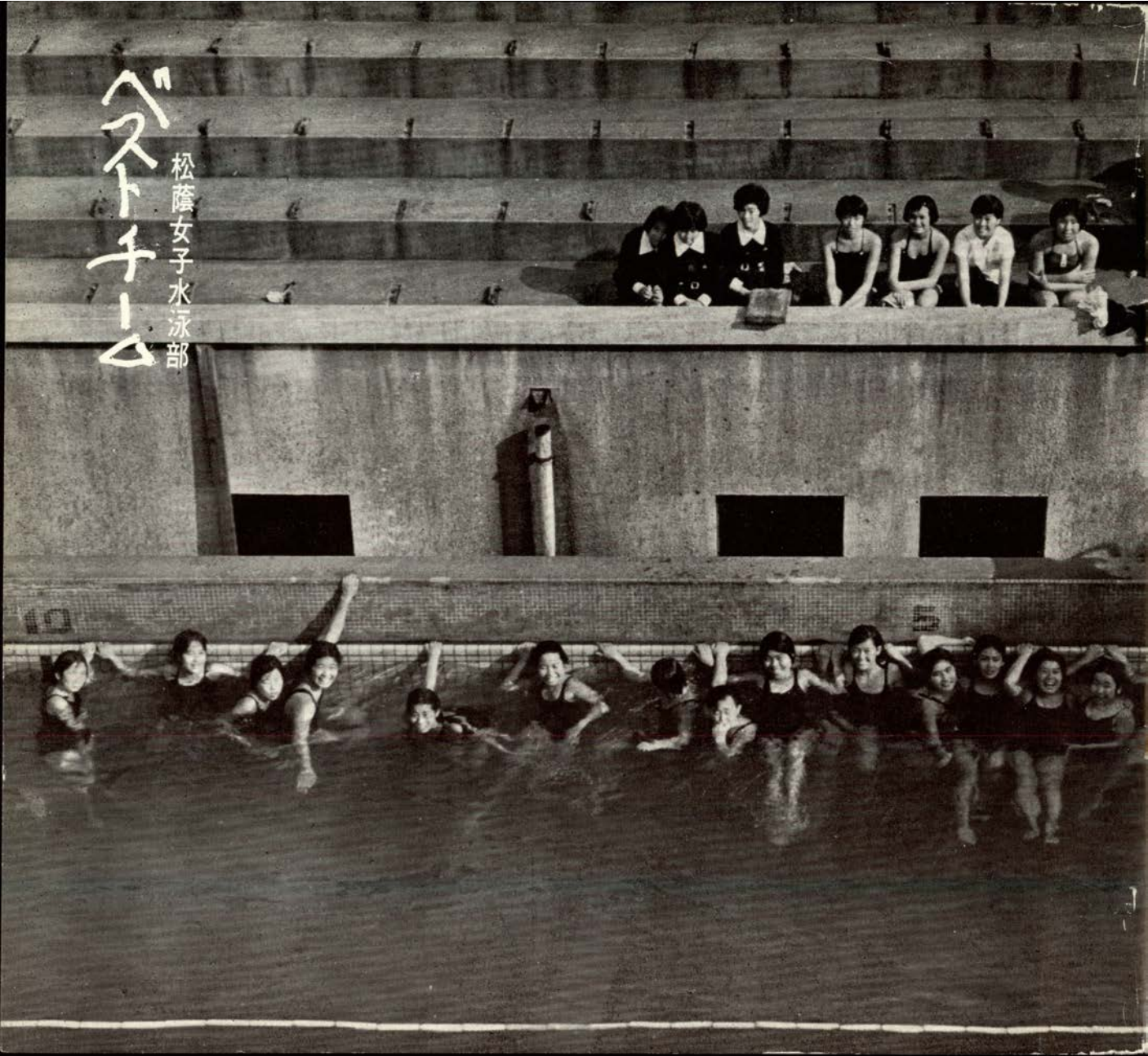
続いては、今日でも現役として活躍中の江原(背泳)芦塚(バタフライ)津谷、友江(飛込)の河童たち。津谷鹿乃子さんはメルボルン、ローマ・オリンピックへ出場、日本水泳界を背負って立つベテラン選手です。

このような立派な卒業生を生み出した伝統あるプールでは、この四月始めから早くも中、高、短大合わせて三十余名の部員が、美しく鍛えた五体を躍動させて、毎日練習に励んでいます。すでに東京オリンピック候補が四、五人誕生河童たちの活躍の日も近いことでしょう(水泳部顧問・保倉富子)



# ベストチーム

松蔭女子水泳部



Paris le 9 Janvier 1955

Monsieur Hirota  
78, Motomachi 3-Chome  
Kobe  
Japan

V. PP. **Suchard**  
"CHOCOLAT SUCHARD"  
SOCIÉTÉ ANONYME FRANÇAISE  
CAPITAL : FRANCES 400.000.000  
10 RUE MERCORUR  
PARIS XI<sup>e</sup>  
R.C. SEINE 54 B 500  
DIRECTION

Cher Monsieur,

Vos lignes du 15 décembre nous sont bien parvenues et il nous est très agréable de voir que vous n'oubliez pas la Direction Suchard. Nous venons vous remercier sincèrement d'abord pour les souhaits exprimés à l'occasion de la nouvelle année, et ensuite pour votre envoi d'une superbe boîte de vos excellents marrons. Nous les avons trouvés de qualité parfaite, goût de vanille très fin, et dans l'ensemble supérieurs à ce qu'on trouve dans la commerce en France. Ceci dit en toute sincérité !

Merci une fois encore pour cet aimable envoi.

Nous vous présentons nos vœux de bonheur, de prospérité, et de santé parfaite pour l'année qui vient de commencer, et vous assurons, Cher Monsieur, de nos sentiments les plus cordiaux.

*Frugot - H. H. H. H.*

マロングラッセの本場フランス最大のチョコレート会社

シユシアル社長並に技師長よりの

おほめの手紙

年頭に際しシユシアル社長をお忘れなく御丁寧な御祝詞に対し衷心より御礼申上ます  
尚見事な容器入のマロングラッセ御恵送に与りありがとうございます御座居ました  
マロングラッセは誠に申分なき出来栄でヴァニラの香りもゆかしく全体的にみてフラ  
ンスの市販の物より遙かに優秀な製品である事を認めました これはありのままの言  
葉で決してお世辞ではありません 重ねて心からお賞め申上ます  
新らしき年の御幸福御繁栄並に御健康を祈り且つ親善の友情を誓つてペンをおきます

昭和三十一年(一九五六)

仏国チョコレート株式会社

パリの一月九日

シユシアル

技師長 ヴイオジエ

広田定一殿

世界中の人からほめられた 日本の誇り 神戸のほまれの!

**マロングラッセ** は  
**ヒロタ** の銘菓です

元町通三

TEL (3) 2340-3523